

# 生徒の進路選択・決定力を 高める進路指導とは？

## 進路指導・キャリア教育の「実態」と「課題」を探る

世界情勢の変化、人工知能(AI)の進化、加速するグローバル化、生産年齢人口の減少：今私たちはさまざまな環境変化の中で生き、その変化に向き合っていくことが求められています。

学校現場においても、高大接続改革、学習指導要領の改訂、主体的・対話的で深い学びへの授業改善、カリキュラム・マネジメントなど、急速に進む教育改革の渦中にあると思います。

では生徒たちはどうでしょうか。SNSなど、バーチャルとリアルを行き来しながら、溢れかえる情報の中でその真偽の不安にさらされ、取捨選択して歩みの方向を定める。私たちの時代よりも、複雑な環境で進路選択に臨んでいるのではないのでしょうか。

第19回を数える「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」では、多様化する進路指導の実態と課題が浮き彫りになりました。進路指導の難しさは依然9割を超え、その要因上位5

項目には生徒に起因する項目が2つランクイン。また、キャリア教育は広く取り組みられている反面、教科学習を通じた取り組みは減少する結果となりました。

本特集では、調査データの二部をご紹介しながら、進路指導の困難な要因として挙げられる「生徒の進路選択・決定能力の不足」に着目しました。なぜ、選択できない、決められないのでしょうか。文部科学省・長田徹先生と筑波大学・藤田晃之先生には調査結果を踏まえてその課題の要因とアドバイスを、筑波大学・渡辺三枝子先生には生徒にどう向き合っていけばよいか、カウンセリಂಗの視点から語っていただきました。

本調査においてご協力いただいた全国の先生方に感謝を申し上げるとともに、本調査、ならびにこの特集が次年度の進路指導・キャリア教育の取り組みの参考になれば幸いです。

山下真司(本誌 編集長)



# これからの社会を生きて働く生徒たち。 進路指導・キャリア教育は どうあるべきだろうか。



## 調査概要

- 全国の全日制高校4,807校の進路指導主事
- 調査期間：2016年10月6日(木)～2016年10月28日(金) 投函締切(※2016年11月4日(金)到着分までを集計対象)
- 調査方法：質問紙による郵送法
- 集計対象数：1,105校(回収率23.0%)

## 回答者プロフィール

- 設置者別  
国立4校(0.4%) 都道府県立732校(66.2%) 市町村区立48校(4.3%) 私立309校(28.0%) 無回答12校(1.1%)
- 高校タイプ別  
普通科単独校625校(56.6%) 総合学科単独校(移行中含む)69校(6.2%) 普通科中心で学科併設校223校(20.2%) 総合学科併設校13校(1.2%) 工業を中心とする高校58校(5.2%) 商業を中心とする高校36校(3.3%) 家政を中心とする高校2校(0.2%) 農業を中心とする高校31校(2.8%) その他38校(3.4%) 無回答10校(0.9%)
- 地域区分  
北海道69校(6.2%) 東北102校(9.2%) 北関東・甲信越154校(13.9%) 南関東203校(18.4%) 東海148校(13.4%) 北陸30校(2.7%) 関西147校(13.3%) 中国・四国110校(10.0%) 九州・沖縄130校(11.8%) 無回答12校(1.1%)

※詳細な報告書はリクルート進学総研Webサイトに掲載します